

<目指せ！ 1等米比率90%以上！！> JA富山市米品質向上生産運動展開中

品質の高い米を生産するには、「充実した太い茎」と「元気な根」を確保することが重要です。そのため遅れずに、次の作業を行いましょよう。

- ①中干しを効果的に行うため、「溝掘り」を確実に実施しましょよう。
- ②田植後4週間までに「中干し」を開始し、根の健全化を図りましょよう。

1 溝掘り 田植後3週間頃から落水し、泥を落ち着かせて溝掘りを行いましょよう

溝掘りは、効率的な入排水や、ほ場内の均一な生育管理を行うために有効です。

<溝掘りのポイント>

- ・形が崩れないよう軽く田干しを行い、泥を固めた後、ひたひた水程度まで再入水して溝を掘る。(溝掘り後に落水)
- ・溝と水尻は確実に連結する。
- ・排水が悪いほ場は溝の設置本数を増やす。



溝掘りをしないと、ほ場内の乾きにくい場所で排水が遅れ生育ムラが発生！刈取りに支障がでる場合も。



3～5m
間隔を目安
に溝を設置

2 中干し 田植後4週間までに中干しを始め、確実に田面を固めましょよう

6月に入ると急激に分げつが増加します。田植後4週間までに遅れず「中干し」を開始しましょよう。また、出穂後20日間の湛水管理に備え、この時期に確実に田面を固めるようにしましょよう。

①中干し時期の目安

田植日	中干し時期
5月10日	6月7日までに開始
5月15日	6月12日までに開始

◎中干しの効果

- ・無効分げつの抑制
- ・土中への酸素供給
- ・地耐力の向上



中干し終了の目安は、ほ場中央部でくるぶしが軽く沈む程度です。

中干し終了頃のほ場の状態

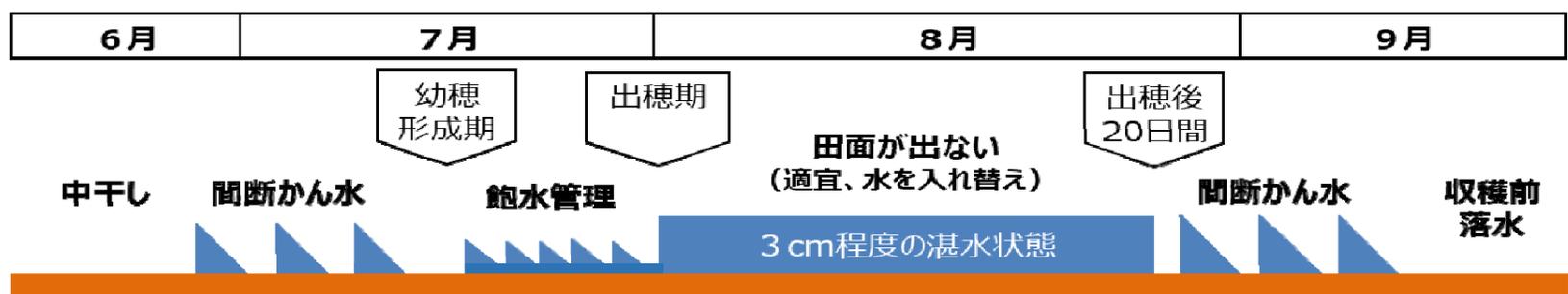
②中干しの程度

- ・田面に軽い亀裂が入る程度を目安に干しましょよう。
- ・復元田は、土がしまりやすいため、一度に干しあげず徐々に干しましょよう。

3 中干し後の水管理 中干しが終了したら間断かん水を行いましょよう

中干し後は、幼穂形成期頃まで湛水と落水を繰り返す間断かん水を実施しましょよう。幼穂形成期まで足跡の深さ3cm程度を目標に地固めしましょよう。

<水管理のイメージ> コシヒカリ



4 中間追肥の施用 中干し後はケイ酸、カリの施用で丈夫な稲体に仕上げましょう

ケイ酸、カリの施用効果

- ①根の活力を高める
- ②フェーン時に水分の蒸散を防ぐ
- ③茎葉を丈夫にし、倒伏を防ぐ
- ④受光体勢を良くし登熟を高める
- ⑤カリは稲の体をつくり、減収を防ぐ

肥料名	時期	10a当たり施用量
エスアイ加里らくだ	6月中旬 ～下旬	15kg
エスアイ加里カリ投げくん		4kg(200g×20個)
シンキョーライトP		20kg

エスアイ加里カリ投げくん【パック肥料】

- ・ほ場に投げ込むだけなので動力散布機をかつぐ必要がありません
- ・5cm以上湛水して施用しましょう！

5 中・後期除草剤 雑草が残った場合、使用方法を確認し、適期に散布しましょう

雑草の状況	除草剤名	10a当たり散布量	散布時期	使用回数	使用上の注意
広葉雑草 (ホタルイ オモダカなどが 残った場合)	バサグラン 粒剤	3～4kg	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・落水して雑草を露出させ、晴天日を選んで散布する ・散布後3～4日間は田に水を入れず、また降雨によって薬剤が流出しないよう、水尻は必ず止めておく ・スポット散布も可
	バイスコープ 1キロ粒剤	1kg	田植後14～60日 (収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
ノビエのみ 残った場合	トドメMF 1キロ粒剤	1kg	田植後14日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	3回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、湛水状態(水深3～5cm) ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	ヒエクリーン 豆つぶ250	250g	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm) ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
ノビエ 広葉雑草 (ホタルイ オモダカなどが 残った場合)	ウイードコア 1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで)	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	ワイドショット 1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・散布の際は、湛水状態で田面に均一に散布する ・散布後、3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水やかけ流さない
	クリンチャー バスME液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・晴天日を選び、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・散布後少なくとも3日間は入水や落水をしない
	トドメバス MF液剤	1,000ml 希釈水量 70～100L	田植後15日～ ノビエ6葉期まで (収穫50日前まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・晴天日を選び、落水状態で雑草の茎葉に確実に付着するよう丁寧に散布する ・散布後少なくとも3日間は入水や落水をしない
	ロイヤント乳剤 (刈払対策)	200ml 希釈水量 100L	田植後20日～ ノビエ5葉期まで (収穫45日前まで)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・落水状態またはごく浅く湛水して散布する ・土壌水分が少ないと効果が発揮されない場合があるため、落水状態で散布した場合は3日以内に入水する ・7日間は落水やかけ流しをしない

湛水状態で散布する除草剤は除草効果を高めるため、散布前に軽い田干しを行い、水の入れ替えを行ってから散布しましょう。除草剤散布の際は、周辺の作物に飛散しないよう注意しましょう。

春の農作業安全運動 実施中 3月1日～5月31日

あなたも農作業中に「ヒヤリ」とした経験はないですか？
春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。
農場や道、用水路など危険箇所を事前に確認し、余裕をもった作業計画を立て、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。

富山市農協ホームページで営農情報の提供をしています

<http://www.ja-toyamashi.or.jp/jouhou/>

JA 富山市 営農情報

こちらで検索！